

『尾幌糸魚沢道路』

早期着工に向けて各種現地調査進む ～厚岸IC予定地付近の埋蔵文化財の並行調査も進行～

●問い合わせ／政策調整係

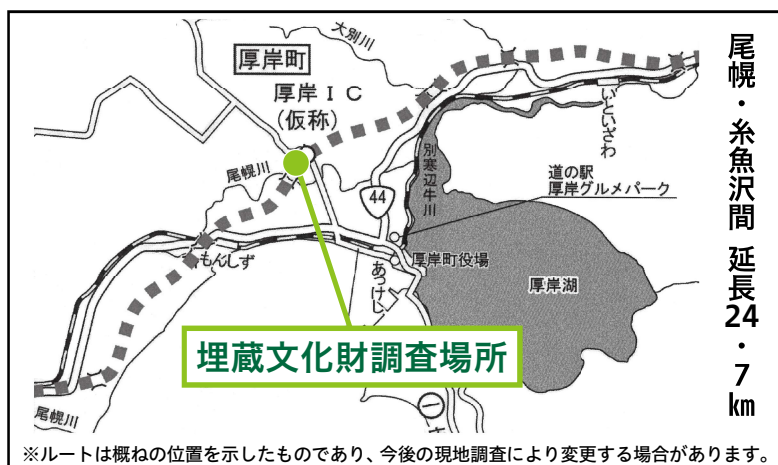
平成31年4月に新規事業化となった北海道横断自動車道根室線の一部を構成する『尾幌糸魚沢道路』は、区間24・7kmの概略ルート幅約250m内において、事業主体となる国土交通省北海道開発局釧路開発建設部によるさまざまな調査が順調に行われています。

令和元年度では約1億円の予算で厚岸IC（仮称）予定地から門静間を先行して、実測線測量や地質調査を行い、本年度は約8億5500万円の予算で全線について同様の調査が行われています。

また、同区間に植生が確認されている希少植物については、専門家の意見をもとに移植するなど、保全対策に着手しています。

さらに、厚岸IC予定地付近において、北海道教育委員会の調査により埋蔵文化財の存在の可能性がわかったため、調査のための立木伐採と同委員会における試掘調査が10月に行われました。

道路用地幅については、全区間の測量設計により決定されます。来年度以降は、用地取得後に整備工事が順次進められることになり、尾幌糸魚沢道路の早期着工を求める地元要望に応えるよう事業が進捗しています。



尾幌・糸魚沢間 延長24・7km

※ルートは概ねの位置を示したものであり、今後の現地調査により変更する場合があります。

太陽光発電システムの保守点検をしましょう ●問い合わせ／商工雇用係

太陽光発電システムの設置者には、2017年4月からの改正FIT法施行により、発電設備に対して保守点検と維持管理に係る実施計画の策定、実施が義務付けられています。

点検に際しては、専門業者による点検が必要となりますので、システム設置事業者へ費用や点検日程等を相談しましょう。



点検のメリット

故障による売電収入の減少防止
金具の緩みによるパネル飛散防止
電線を留めている部分の緩みによる火災発生防止 など

点検時期の目安

最初の点検については、設置から1年後、以降は4年に1度を目安に点検を行いましょう
※上記のほか、メーカー保証や出力保証が切れる前などを目安に、点検日程、費用の予定を立てましょう

点検方法

目視点検（太陽電池パネル等を目視で確認）
測定点検（システムの数値を計測）



専門業者による保守点検だけでなく、屋根に上らずに地上から見える範囲で、異音や破損などの異常がないかを日頃から確認しましょう。